

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300033		
法人名	有限会社もろがみ		
事業所名	グループホーム両神		
所在地	岐阜県加茂郡白川町河岐711番地		
自己評価作成日	平成25年6月15日	評価結果市町村受理日	平成25年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300033-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症のあるお年寄りが毎日の生活を通して出来る限り安楽に過ごして頂けるように支援する。また、皆さんが安心して穏やかに暮らせることを大切に、これを目的とする。運営方針としては「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を掲げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からまもなく4年となり、運営基盤の安定が見られる。職員を14名雇用し、ゆとりあるサービスを提供することで、職員の働き甲斐のある職場づくりと、定着率の安定につながっている。ゆとりは、そのまま、利用者に伝わり、穏やかな心と、笑顔を引き出し、理念が具現化している。管理者・職員は、それぞれの持っている能力を最大限に発揮し、互いに補い、介護者としての自覚と向上心を高めている。今年度から、家族会を立ち上げ、利用者の生きがい作りを家族と一緒に考え、相互に信頼を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有して実践に繋がっている、又その都度再確認して話し合いを密にしている。	理念を毎朝全員で唱和し、地域の一員としての関わりを大切に、その人らしい暮らしを提供している。管理者・職員は、日々理念の原点に立ち返り『ゆっくり、一緒に、楽しみながら』を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア・シルバー人材センターの方々と交流を大切にしている。それぞれ力を貸して下さる方々の感想や支援方法等を記録して日々の支援に繋がっている。	地元の生き生きサロン活動で地域住民と交流している。事業所の駐車場を「しだれ桜」の花見会場として、住民に提供している。近隣とは、災害時の相互協力で合意し、ホーム行事にも招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の皆様に、この事業を理解して頂くことを目標として、催し物への参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。現在メンバーは6人で支援の現状、課題、取り組み法方等を報告し、意見交換をしている。	会議は、隔月に開催し、ホームイベントを兼ねるときもある。職員の介護事例発表や、家電による火災事故の対策を話し合い、古い電気器具を廃棄したり、更新につなげている。	会議メンバーへの出欠要請は、往復はがきを活用し、証拠とすることが望ましい。また、議題の設定や議事録の充実にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町福祉課の方のご協力を頂いており、何かにつけて報告したり、相談に乗って頂いたりと常に連絡を取り合っている。	隣が町役場なので、随時出向いて、事業報告や相談をしている。介護保険制度の相談や認定更新、職員の雇用などで、協力関係がある。町主催の勉強会等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関しては、町の福祉課より実際に指導を受け、こちらの気付かないところを指摘されて改善した経緯もあるが、日頃から職員間で話し合いを密にしている。	身体拘束のないケアについて、カンファレンス(症例検討)を定期的に行っている。安全上、やむを得ない場合は、家族と話し合い、一定条件の下で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」と思われる行為はないが、「些細なこと」でも「これって虐待になる？」等、気を配り話し合っている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と話し合い支援してゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得して頂いている。今後はより明確な説明を経験を踏まえて行って行きたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に死活状況・介護計画の変更等について話し合うことが多い。	家族の面会時や電話、家族会の場で話し合いを行っている。利用者が安心できる暮らし方の取り組みを、家族に伝え、意見を求めている。終末期支援のあり方については、繰り返し説明を行っている。	家族の中には、外出についての理解が十分ではなく、戸外に出ることの意味合いや、実態について、共通認識が得られるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの機会は多く持っている。職員が意見を言いやすいような雰囲気作りを大切にしている。	職員は、ケア会議やカンファレンスの場で意見を述べている。また、3ヶ月ごとの親睦会でも話し合っている。利用者のむくみや腰痛対策、レクリエーションでは、職員の能力や経験が発揮できるように反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「介護職員処遇改善」制度の御陰で職員全員の励みになっていると実感している。管理者としては「働きやすい職場」作りを心がけているつもりである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は勤務状況に苦慮しながらも、出来る限り参加できるように努力している。近隣で開催される時は自主的にほぼ全員が参加している様子である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業のGHとの交流は大切である。職員が他のGHの職員と個々に交流する機会を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前情報は大切で入所後に気づいて家族に問い合わせたりして確認している。ただ、少ない情報でも「安心して暮らしていただく」支援は上達したのではないかと自負しているところである。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに築かれるご家族との信頼関係は言うまでもなく、入所後もその信頼関係を継続発展出来るように努めなければならないと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要とされる支援に重点を置く事は勿論のこと、今年のテーマとした「観察」「見極め」にも気を配って「質の向上」に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らし(生活)を共有する仲間の関係」を築く努力をしてきたつもりである。毎朝の唱和と一緒にしたりして「馴染みの関係」が築かれてきていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活や身体的・精神的変化については面会時にご家族へ説明したり、必要に応じて電話をしたりして伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の来所については働きかけを行い、積極的に外出を促している。	家族と親戚が訪れ、ゆっくり過ごしている。希望者は、買い物や自宅へ家族と共に出かけている。馴染みの場所へは、事業所の福祉車両で、出かけられるように個別に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を垣間見る事も多々あり、良きにつけ悪きにつけ穏やかな環境を作り出せる支援が出来るようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ1年間、契約終了又は入院等はないが必要に応じて相談・支援は行ってゆく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の支援の中で「見守り」と「寄り添い」を大切にしている。観察を密にすることと個別支援を重要と位置づけている。	日々の会話や観察の中で、気づいたことを「かわりノート」に記録し、全員で周知している。利用者の「観察と伝達」を重視し、些細な表情や訴えを見逃さないように、和を大切にしたり暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それらの把握は充分出来ている。当ホームでの生活が1年～3年と長期になっているので、充実したホーム生活を支援することを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「観察・見守り・寄り添い」を日々大切に考えている。精神面、健康面の変化に素早く対応できる為にカンファレンスに重点を置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はカンファレンスで情報を共有し、個別支援の充実を図っている。日常生活の中に無理なく取り込まれる事を大切な支援としている。	本人・家族の意向を確認し、職員の気づきを、介護計画に反映させている。見直しは、状態を観察しながら、無理がなく、本人のリズムで楽しい生活が送れるような介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、週3回のミニカンファレンスなどを通して実践での継続を確認して速やかに計画変更も行なっている。個別支援は自然に生活の中で行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスに心がけている。どのような状況変化にも対応出来るゆとりと自信が職員の間で構築されつつある。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「シルバー人材センター」や「地域のサロン(婦人会)」の方々に支援をお願いして2年余経過している。穏やかな日常生活を送れる為の手立ての一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3回の往診をお願いしており、関係構築は出来てきている。約2年経過しているので、一人一人の様子も把握してもらい安心している。	本人・家族の希望を受け入れ、ほぼ全員が協力医を、かかりつけ医としている。月に3回の往診により、医療面の健康管理ができています。さらに、歯科の訪問と口腔指導、薬剤師の訪問管理指導を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の連携は出来ている。看護師は薬の管理や受診の付き添い等責任を持っておこない介護職へ情報を正確に伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する時は家族や病院関係者との連携は勿論密に行っている。又入院後は面会を頻回に行って早期退院にもって行く努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会(H.24/9月)で議題の一つとして話し合いました。GH全体として、体験しながら話し合い、マニュアル化する方向になりました。	ホームで支援できる指針のマニュアル化や看取り事例を検証し、終末期の支援体制づくりを進めている。特に、入院の必要のない、自然な看取りには、協力医と連携体制を取っている。	重度化・終末期の対応方針を、家族や関係者に、説明や同意を得るための明文化に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には速やかに連絡をとって、早く正しく対処することを心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・防災訓練を行ったり、地域住民の協力体制づくりを行っている。	消防署の指導を受け、年に2回の訓練を実施している。通報・初期消火・避難等、夜間を想定して行っている。近隣との協力関係や備蓄を確保し、近くに住む、職員8名が、素早く駆けつける体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員がその事について理解を深める(立場の認識)努力をしている。個別に言葉掛け等の対応することを大切に考えている。	日々の暮らしの中では、丁寧な言葉かけを行っている。自尊心を傷つける乱れた言葉を使わないように徹底し、倫理規定にも遵守事項を明記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の対応次第で日常生活が穏やかになったり安心感を与えることが出来るということに理解を深めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールに沿ってはいはるものの、一人一人の日々の変化に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体の清潔には特別に心がけているが、無理じゃない方が良く判断した時は自然の流れを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が上手に数人の利用者を巻き込みながら、準備や配膳や片付けを行っている。意識的に利用者にも参加してもらっている。	職員も一緒に同じ食事を食べ、季節の野菜を使い、品数が多い。調理人(職員)の腕前や味付けの話題が弾んでいる。利用者も、食材の準備や配膳、片付けを、当たり前のように手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査のデータ等も考慮してバランス良く摂取出来るように考えている。嚥下状況と水分補給にはかなり配慮しているつもりである。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清拭は欠かさない。各利用者の歯の状態に対応して行っている。特に昼食後は丁寧にしている。訪問歯科治療も必要に応じて利用している。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や排泄介助は一人一人の身体状況に合わせて行っている。立位保持が困難となった場合は安全を考えて、自室でのオムツ交換も行っている。立位保持の重要性は充分理解している。	個々のリズムに合わせ、静かに声をかけ、トイレへ誘導している。日中は、全員紙パンツで過ごし、夜間は、状態に応じ、オムツ(2名)とポータブルトイレ(3名)で、羞恥心に配慮して支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容には気を配り根菜類を多くすることと水分補給に心がけている。個人個人の排泄パターンを把握して、排便困難の対処はかなり丁寧にチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴は行なっている。その日の気分拒否する方もいるが個別対応で誘導の方法を工夫している。変化は常にあるが、対応出来ている。	入浴は安全を第一に、職員5名が、それぞれの持ち場で役割を担っている。嫌がる人は、気分が落ち着くように工夫し、急な汚れには、シャワー浴でも対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活のリズムに注目している。午後の休息も前日からの様子を踏まえて誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容と方法はきびしく指導し、確認作業に十分な注意を払うように話し合っている。報告と記録を大切に考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・配膳・片付けや掃除・洗濯等それぞれに役割分担が出来て、職員の誘導によって自然な流れが生まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は定期的には出来ていないが、屋上へ上がったたり、1階へ降りて花を見たりしている。	ホームの広い前庭は景観もよく、各種の鉢植えが、ふんだんに並べてある。そこでの外気浴が日課である。自宅や遠方へは、福祉車両を、家族やボランティアに貸し出している。町内には「しだれ桜」の名所があり、季節の行事として、全員で出かけている。	

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人ではあるが、職員が同行して買い物が出来るように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に出来る体制にしてあるが、番号は職員が押すようにしている。少数の人が時々希望しているので対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる生活空間を保つように努力している。1階と建物の周りの草花の鑑賞も出来るようにしている。	共用の場には、手入れの行き届いた、季節の花や観葉植物を飾っている。ことわざ集や標語、暮らしぶりの写真など、生活感のある工夫をしている。テーブルや椅子は、車椅子の高さに合わせて改良し、機能を補い、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大部分の時間はホールや和室で過ごしている。それぞれの居室は昼食後の休養と夜間の睡眠の為に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	支援し易いような居室環境になっているが、家族や利用者の希望は出来る限り受け入れて対応している。	馴染みのある収納筆筒や家族の写真、手づくり作品などを目線に配置し、不安がなく、落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や残存能力を生かす支援をしている。		